

吉田財団設立40周年記念事業

令和7年度 教材活用状況報告書

公益財団法人吉田学術教育振興会  
理事長 山倉修一殿

学校名	福岡県立三池高等学校
学校長名	堤 隆広
報告者	松本 靖江
寄贈品	1.デジタル簡易無線機、バッテリーパック
《 振り返り 》	
教育的課題	1.学校行事等を実施するにあたっての職員間の連携。 2.大規模行事における生徒等の安全確保。
教材活用の狙い	1.職員間の連携、情報の共有と共通理解による円滑な教育活動の実現 2.学校行事等における危機管理体制の確立。
目的達成の為の工夫	1.学校行事等を実施するにあたって、実施要項等を作成し、使用者や使用場所、使用場面等を明確にする。 2.教材の使い方等について、使用前に職員間で確認する機会を設ける。
《 教材活用の効果・成果 》	
活用状況及び、教育的課題の解決状況	1.保護者や地域住民、中学生も来校する文化祭にて活用。迅速な情報の共有が図れた。 2.交通整理等も、円滑に行うことができ、近隣住民への迷惑防止となった。 3.生徒の不測の事態にも、迅速に対応できる状況となった。
対象者・利用頻度	1.教職員 学校行事での活用(大運動会、オープンスクール、文化祭、マラソン大会など)
目的達成状況	1.レンタルするとなるとハードルが上がっていた小規模の行事においても活用できるようになり、人力での対応によるタイムラグがなくなり、職員間の情報の共有が迅速になった。また、経費の削減にもつながった。
教育的効果についての所見等	当初の教育的課題を十分に達成しており、大規模行事だけでなく、小規模の行事においても、教職員間の速やかな情報共有と迅速な対応が可能となった。

## 活用状況の写真等(当日の様子など)



### 今後の活用見通し・課題

納入の時期により2学期からの活用となったが、1学期の行事である運動会、3学期実施予定のマラソン大会など大規模行事はもちろん、外部からの来校者があるような中・小規模の行事でも予行段階からの活用が期待できる。

急な雨の対応が、課題かと思われる。